

全国植樹祭の目的・歴史・特徴

○目的

国土緑化運動の中心的な行事として、国民の森林に対する愛情を培う

○歴史

昭和25年から開催

(第1回開催テーマ「荒れた国土に緑の晴れ着を」)

第1～20回「植樹行事並びに国土緑化大会」

第21回～「全国植樹祭」

○特徴

「三大行幸啓」の一つ

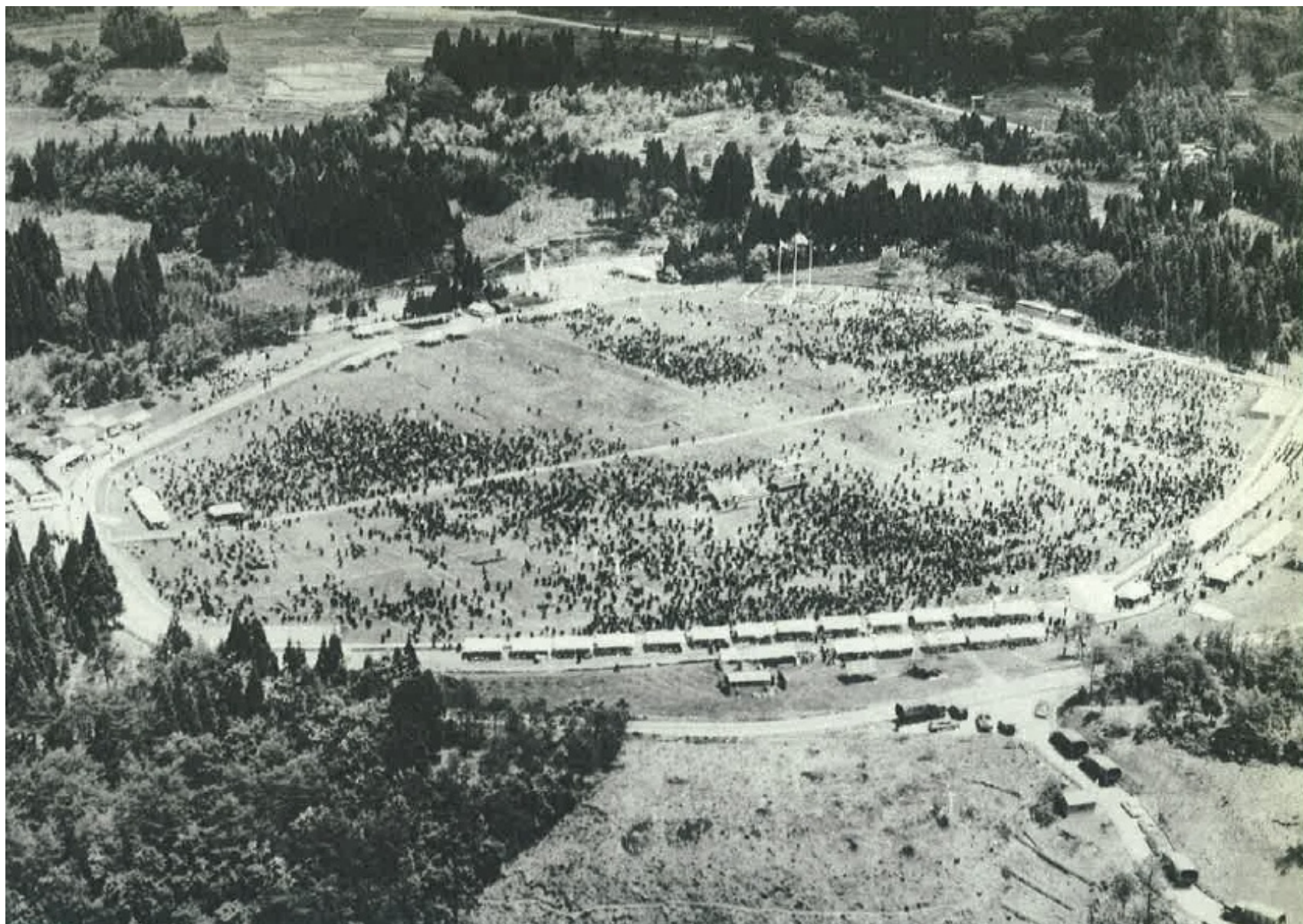
主催は開催県、国土緑化推進機構

第20回富山県大会



第20回大会を砺波市頼成で開催（S44年5月26日）

開催テーマ「低質広葉樹の高度利用と拡大造林」



植樹活動

現在は県民公園「頼成の森」として県が管理



参加者12,000人(15,000本のスギを植樹)

近年の開催状況と今後の予定

開催年	大会回数	開催地
H21	第60回	福井県(福井市)
H22	第61回	神奈川県(南足柄市、秦野市)
H23	第62回	和歌山県(田辺市)
H24	第63回	山口県(山口市)
H25	第64回	鳥取県(西伯郡南部町)
H26	第65回	新潟県(長岡市)
H27	第66回	石川県(小松市)
H28	第67回	長野県
H29	第68回	富山県(内定)

各県、工夫を凝らした「県民参加運動」を展開し、
大会前から開催気運の醸成を図る

第64回鳥取県の開催状況（H25年5月25日、26日）

関連行事（1日目）

- ・両陛下をお招きしての緑化関連コンクール入賞作品御覧
- ・両陛下をお迎えしての歓迎レセプション
- ・関連行事（全国林業後継者大会等）



両陛下による作品御覧



歓迎レセプション

（写真：鳥取県ホームページより）

大会会場（2日目）

参加者数

6,970人

・招待者

4,740人

・スタッフ・出演者

2,230人



第64回全国植樹祭ロゴ



シンボルマーク「トッキーノ」



「とっとり花回廊」
(鳥取県立フラワーパーク)

植樹会場

とっとり花回廊いやしの森(西伯郡伯耆町)



- 約4,500本を植樹。
イヌシデ、エノキ、クリ、コナラなど四季の彩りを感じられる森や多様な生き物が生息する森等を造成するための樹種を選択。

式典 ～植樹活動後～

式典会場



お野立所

天皇皇后両陛下の御座所を設ける全国植樹祭を象徴する施設



式典会場全景

正面中央にお野立所、両脇は特別招待者席
参加者は、県産木材利用のベンチに着座

式典

プロローグ(10:10~10:50)



はじまりのメッセージ

出演者(子供)を中心とするパフォーマンス、「森は海の恋人」のメッセージを発信

・その他 鳥取県の紹介映像、大会テーマ等の感謝状贈呈等



創作劇「大山森話」

子どもと木の精との語らいを中心に、人間と木との共生を表現

式典

天皇皇后両陛下 御到着(11:00)



天皇皇后両陛下 御到着



開会、三旗掲揚・国歌斉唱

式典

天皇皇后両陛下によるお手植え、お手播き



お手植え



お手播き

みどりの少年団が介添え

式典

メインアトラクションとリレーセレモニー



メインアトラクション
「はぐくみのメッセージ」
森への想いや林業を取り
巻く現状をダンスで表現



リレーセレモニー
鳥取県知事から次期開催県の新
潟県知事に、全国植樹祭を象徴
する「木製地球儀」を引き継ぎ。
新潟県知事挨拶。

式典

両陛下 御退席(11:55)



式典

エピローグ(12:00~12:20)



招待者も参加できる音楽と演出により、未来に向けたメッセージを発信。

フィナーレは鳥型風船(生分解)の放天。

おもてなし広場



郷土芸能の発表や郷土物産品の販売等

全国植樹祭応援イベント(同日開催)



テーマ ～「ここでも植樹祭！みどりと食の広場」～

JR米子駅前「だんだん広場」において、全国植樹祭のパブリックビューイング、苗木無料頒布会、食のテント村等を設置
(主催:米子市観光協会)

招待者の宿泊・輸送業務

県内外からの招待者は「主催者手配の指定されたバス等」により式典会場へ移動

- 県外招待者の宿泊は主催者が計画的に手配
- 県外招待者には、式典終了後、森林・林業や観光の魅力を発信する「視察コース」も設定



大型バスが車列をつくる駐車場
(鳥取県)